

平成 22 年度第 1 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 22 年 5 月 31 日（月）18：30～20：55
- 場 所：市役所西棟 8 階 812 会議室
- 出席委員：7 名（欠席 1 名）
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 新任委員委嘱状交付

3 配付資料確認

事務局より事前配付資料と当日配付資料の説明

4 議事

（1）平成 21 年度運営実績の評価

【事務局】 高齢者支援課からは資料 1 について説明いたします。平成 21 年度の補助金につきましては、資料 1 の 3 ページにありますとおり確定いたしましたのでご報告させていただきます。

資料 1 の 1～2 ページには、各施設の収支状況を記載しております。平成 21 年度の状況を説明させていただきますと、当年度収支では「月見路」、「関三倶楽部」以外の施設は赤字となっておりますが、各施設ともに前年度繰越金を充てて黒字としております。

市民社会福祉協議会からは平成 21 年度の運営支援についてご報告いたします。市民社会福祉協議会では担当職員が毎月 1 回行われる各施設の会議に参加して、運営の相談やアドバイスを行っている状況にあります。

また、スタッフの研修を実施しており、平成 21 年度は食中毒の予防についてと高齢者福祉施策についての研修をそれぞれ 1 回行い、延 94 名が参加いたしました。その他にスタッフ相互交流を 7 施設で実施し、延 44 名が参加いたしました。更に、平成 21 年度は代表者会議を 11 月 5 日に開催し、今後の運営方法や運営状況について意見交換をいたしました。

また、市民社会福祉協議会ではテンミリオンハウス立ち上げ時の運営支援の

ほか、各種書類作成の支援や利用者の個別対応の検討、日常における運営に関する相談等の対応をしております。

保育課からはこどもテンミリオンハウスの利用傾向についてご報告いたします。ここ数年同じ利用傾向にありますが、「ひまわり事業」という一時保育事業が全体の4割を占め、残りの6割は「あひる事業」という自由来所型の事業で占めています。また、「はあと事業」という相談事業に関しましては、保健センターや保育園等で行っている相談事業が充実しており、こどもテンミリオンハウス「あおば」で予約して相談事業を行うというよりは、日頃のひまわり事業やあひる事業の中で相談をすることが多くなっています。また、専門的な相談は、専門的な機関に繋ぐという体制ができております。

収支につきましても、ここ数年算定された費用の前後で推移しておりますので、適正な運営がなされていると判断しております。

利用人数の傾向はほぼ横ばいで大きな増減はありませんが、保護者の方が毎年入れ替わっていくという形態からも、例年同じような形での利用状況となっております。

【事務局】平成21年度の運営実績および活動状況について、まずは概括的な点を説明させていただきましたが、本件につきましてはこの後に行われる各運営団体のヒアリング内容も含めて、後ほど質疑応答を行いたいと思います。

(2) 平成21年度運営実績ヒアリング

第1グループ（川路さんち、月見路、関三倶楽部、そ~らの家）

【委員長】お忙しいところお集まりいただき大変恐縮ですが、どのような運営を行えば地域福祉に貢献していけるのかという点を実際に運営されている皆様方と話し合いをしながら、より良いものにしていこうという趣旨でございますので、ご協力いただきたいと思います。それでは、各運営団体の活動報告をお願いいたします。

【川路さんち】「川路さんち」は利用者が少ないと過去に指摘されており、その当時は登録者数が20名でしたが、平成21年度末では61名の登録者となりました。「川路さんち」は他の施設とは違い、朝から夕方まで利用される方が多い傾向にあります。また、台所が狭いということもあり、あまり多くの方を受け入れることができない状況でもあります。これから人数が増えてきましたら、その対応を考えていかなければならないと思っています。また、1日利用されることによって、10年間通い続けている90歳以上の方が12名いらっしゃ

る現状を見ましても、「川路さんち」を利用することが本当に介護予防になっているという実感をしております。

平成 21 年度は初めての試みとして、西久保福祉の会、西久保コミセン、西一町会との共催による健康講座を開催しました。同じ地域にありながら、1つの講座をあらゆる場所で行うよりも、協力して行う方が人数も集まりやすく、効率的で良いのではないかという考えから初めて試みましたが、これは今後も継続したいと思っています。

スタッフの高齢化に対し、平成 21 年度からは若いスタッフも入れ、仕事の引継ぎなどを行っている状況です。また、スタッフもほとんどの方が西久保在住ですので、利用者の方とも親密で良い関係を築けており、地域の皆で支え合うという体制ができていると思っております。

また、精華保育園が近くにあり、園児が節句やひな祭り等に折り紙で作ったもの等を利用者にプレゼントしてくれます。更に中高生のボランティアも体験ボランティアとして受け入れており、世代間の交流も盛んです。

【月見路】 平成 21 年度は登録人数 108 名、利用者数は 3,456 名でこれは平成 20 年度より 150 名ほど減少しております。1 日平均利用者数は 11.88 人、平均年齢は 79 歳となっております。

活動状況としましては、秋頃からスペースの有効活用としてプログラムを 1 日で 2 つずつ行ってきました。毎日利用される方にとっては、もう一方のプログラムに出られないことが起き、編成が難しいところもありましたが、できる限り多くの方に利用していただくよう工夫をした次第です。また、福祉機器全般のことについてまだまだ知られていないことが多いという現状から、「北町さわやかまつり」や「北コミセン文化祭」という機会を利用して、四小地区福祉の会と共催で福祉機器の展示および体験を実施しました。

昨年度初めて行った試みとして、利用者のお孫さんが夏休みの期間中に「お孫さん夏休み体験」を行いました。これは、普段自分の祖父母が「月見路」でどのように過ごしているかを知っていただくことや高齢者との交流を目的として実施しました。更に歳末の 12 月 29 日に独居高齢者を主対象とした「年越しそば食べよう会」を初めて実施しました。最終的には 19 名の参加者があり、賑やかに行うことができました。

また、大勢で食べる楽しさを味わっていただくことを目的に「納涼祭」と「新春鍋パーティー」を行い、納涼祭では 31 名、新春鍋パーティーでは 15 名の参加がありました。

また、運営していく中で、利用者の方には介護保険のサービスを受けた方が良いという方もおられます。そういう場合はご家族の方に介護保険の認定を勧めており、実際に認定を受けられた方が昨年度は2名おられました。

【関三倶楽部】 平成21年度は90歳～100歳の方のショートステイもしくはデイサービスの利用者が増えました。ご家族のお話を伺いますと、大規模施設では夜間等が不安なので、狭くどこに居ても目が届く「関三倶楽部」の方が安全だという考えで利用されているとのこと。ショートステイを行っているため、スタッフは24時間在駐しています。よって早朝からの預かりや、デイサービスの利用者でも夕食後20時頃までの利用を可能な限り受け入れております。また、ご自宅にお風呂が無い利用者の方も多く、銭湯の利用を断られた高齢者の方もいる状況ですので、入浴のみの利用も受け入れております。

食事会は、ショートステイを行っている実情からショートステイの利用が無い日を選ばなくてはならず実施回数が少ないのですが、普段聴くことができない楽器や歌曲を提供できるよう取り組んでおります。

また、福祉の会や地域の方を対象に、「レッツトライ」という名目で介護講習会を実施しております。介護に接する機会がない方には、介護用品の紹介や車イスの押し方、ベッドからの移動等の講習を中心に行いました。また介護だけではなく、そば打ちやうどん打ち等皆さんで楽しめることも実施しております。

【そ～らの家】 平成21年度の1日の利用者は、平均して15～16人でした。ボランティアの方達やスタッフの尽力にも助けられ、利用者とは自然と和気あいあいとしたコミュニケーションがとれていると思います。また、口コミによる利用者も増えている状況です。

旬の野菜や食材を地域の方や地方の方から提供していただき、利用者の方には新しい食材や珍しい食材を楽しんでいただいております。

地域向けの講演会等は人数の調整等を「ゆとりえ」の在宅介護支援センターと常に連携をとって実施していきたいと思っております。

中学生の職場体験は、市内だけではなく調布市や三鷹市からも以前武蔵野市にいた先生からの依頼で受け入れている状況です。高校生は西高が近く、職場体験の依頼がございましたので昨年度から受け入れております。また、大学生は市民社協や市役所から依頼がありますが、できるだけ受け入れていきたいと思っております。

その他に、最近高齢者の交通事故や振り込め詐欺の被害が多いため、武蔵野警察署と連携し、2～3ヶ月に1回お話いただくようにしております。

【委員長】 ありがとうございます。それでは質問をお願いいたします。

【委員】 今運営の中で1番困っていることや、運営の中で当面取り組んでいかなければならないことを教えていただけますでしょうか。

【川路さんち】 今1番困っていることは、利用者の人数が多いときに台所が狭く、並べるところもないということです。

【月見路】 利用登録者108名の内、常時ご利用される方は問題ありませんが、月に1回程度ご利用の方がしばらく見られなくなった場合、追跡できない点が悩ましいところです。また、通常のデイサービスと違い、テンミリオンハウスは利用者ご家族との接点が比較的少ないケースが多くあります。よって、ご家族との接点が少ない利用者の状況把握が今後の課題です。

【関三倶楽部】 困っていることはお風呂が通常のお風呂なので、もっと入りやすいお風呂にならないかなということです。また、トイレにお連れする方が9割なので、順番を考えなくてはいけないことからトイレが1つでは足りないということもあります。その他に、これは仕方がないことと認識しておりますが、2階の学童クラブの騒音に悩まされております。

【そ~らの家】 先ほど「月見路」さんがおっしゃったように、家族の顔が見られない、連絡が取れないという点に悩まされております。しかし、「ゆとりえ」の在宅介護支援センターと連携をとり、お互いに情報交換ができているため、安心して利用者を受け入れることもできております。また、「そ~らの家」にはトイレが2つもあるので贅沢と言われるかもしれませんが、イベント時等は利用者が多く室内だけでも100人ほどになりますので、男性用のトイレだけでも用意していただけないかお願いしているところです。

【委員】 今4団体から伺った内容では、ハード面の問題やご家族との連携という運営面に關わることですが、そういった問題をもう一度整理をし、早急に対応しなければならないことへの対応を行っていくべきと思います。

【委員】 世代間交流について「川路さんち」と「そ~らの家」に質問します。まず「川路さんち」ですが、高校生のボランティア体験の受け入れについて、これは学校からの依頼なのでしょうか。それとも高校生のグループが自主的に参加しているのでしょうか。または、「川路さんち」から声をかけているのでしょうか。

また、「そ~らの家」についてですが、中学生の職場体験と西高生徒のボランティアは、それぞれ自主的に参加しているのか、それとも「そ~らの家」から声をかけているのでしょうか。

【川路さんち】 高校生ボランティアは、3ヶ月に亘って毎週木曜日行うという内容で、学校からの依頼でした。私立高校に通われている生徒さんが西久保在住ということで、最初はその生徒さん本人が依頼に来て、受け入れを許可した後改めて学校側から先生が依頼に来られました。

【そ~らの家】 中学生の職場体験は市内も受け入れておりますし、私立の藤村女子中学校は中学3年生を受け入れました。西高生徒に関しましては、小・中学校の頃から知っている方がおり、以前から「そ~らの家」に体験に来たいとおっしゃっていましたので、近いので一度来てみてはいかがでしょうかとしたところ、それがお友達にも広がっていったということです。

【委員】 テンミリオンハウスでは介護保険が利用できない方を対象にすることがほとんどだと思いますが、中には介護保険を利用しながらそのサービスが足りなくてテンミリオンハウスを利用されている方もおられるのではないかと思います。そのような方の割合はどのくらいでしょうか。

【川路さんち】 「川路さんち」に通っていた方で、徐々に介護保険を利用するようになり、週に数回は介護保険のサービスを利用し、残りは「川路さんち」を利用するという方が増えてきています。割合は正確には分かりません。

【月見路】 最初の登録の際に介護保険を利用されているか伺っておりますが、途中から利用するようになられた方に関しましては、ご家族からその情報を聞くか、または会話の中で知っていくしか方法がないため、把握できていない部分もあります。その中で現在把握できているのは5名です。

【関三倶楽部】 「関三倶楽部」に関しましては、100%に近い99%です。

【そ~らの家】 介護保険を利用されているのは6名ほどです。しかし、どのサービスを利用しているか把握できない人がほとんどです。利用者から報告があるわけでもないのに、会話の中で知ることが多いです。中にはケアマネジャーから1つの施設だけではなく、他にも利用された方が良いのではとアドバイスされた利用者もおられましたので、ケアマネジャーには我々にも相談した上で、その方にとって最善の方法を選択していくようお願いしたところです。

【委員】 テンミリオンハウスの存在自体が、非常に曖昧な部分をカバーするようになってきましたので、介護保険との兼ね合いがこれからも出てくると思います。

【委員】 平均的に1日どれくらいの人数で運営されていますか。また、昨今景気の状態が非常に悪くなってきておりますが、スタッフの募集やボランティアの募集等に影響は出ていますでしょうか。

【川路さんち】 「川路さんち」は責任者1名、食事・掃除担当が2名の1日3名で運営しております。ボランティアに関しましては、ボランティアに頼りっきりの運営をしておりませんので、ボランティアの不足等はありません。

【月見路】 6日間のうち、4日間は常勤2名・パート1名、2日間は常勤1名・パート2名という体制で行っております。

【関三倶楽部】 利用者さんが1名の時は施設長が1名、利用者が2名以上のときは2名体制、夜間は1名体制にしております。全体16名で1週間ローテーションを組んでおります。

【そ~らの家】 事務は午前8時～午後5時で1名、厨房は3名入りますが午後2時までが1名、午前9時～午後5時までが2名という体制で行っております。ボランティアに関しましては、この10年間困ることはありません。

【委員】 運営面で困ったことがあった場合、市民社協が運営支援をすることにはなっておりますが、実際にどのような相談をされていますか。

【川路さんち】 常に様々なことを相談させていただいております。本当に頼りにさせていただいております。

【月見路】 市の窓口ですと距離感がありますので、「月見路」が市民社協から近いこともあり、市民社協とは密に連絡を取れていると思います。

【関三倶楽部】 市に電話するよりも市民社協に電話する方が何でも相談しやすいので、つつい頼ってしまいます。とても助かっております。

【そ~らの家】 市民社協には大変感謝しております。やはり、ワンクッションあって、直接市に行くよりも社協に相談してから行く方が良いと思っています。

【委員長】 「関三倶楽部」の入浴の利用料はどのようにされていますか。

【関三倶楽部】 入浴料は200円ですが、デイサービスの利用料300円と併せ、お茶やお菓子もお出しして500円をいただいております。

【委員長】 「月見路」のお助け隊は実施回数が少ないですが、要望はかなりあるのではないのでしょうか。

【月見路】 地元の建設会社との連携でやっておりますが、そちらが動いていただける案件と動きにくい案件があります。例えば、「通信販売で家具を購入したけれど、それを組み立ててくれないだろうか。」といった依頼があった場合は、「月見路」のスタッフが行って組み立てを行います。また、こちらのPRも不十分であると思いますので、そこは反省点であると認識しております。他には、吉祥寺ナーシングホームの利用者で、薬を「月見路」に取りに行ってもらいたいと

いう依頼がありまして、福祉の会の会長と相談し、お互い協力してできることは行っていこうと話しておりますので、今後はこのようなところも強化していきたいと思えます。

【委員長】 以上で質問を終了します。ありがとうございました。

第2グループ（きんもくせい、花時計、くるみの木、あおば）

【委員長】 それでは、第2グループのヒアリングを行いたいと思えます。まずは、各施設の活動状況をご報告願います。

【きんもくせい】 「きんもくせい」は境1～5丁目、桜堤1～3丁目の地域の方が中心に利用されますが、その地域には、60歳代～80歳代の方が大体5,000名ほどいらっしゃいます。超高齢者社会と言われる世の中になっておりますが、単に高齢というだけではなく、ご夫婦のみですとか、お一人で暮らしておられる方が多いのも現状です。そのような方達にとって、近くにあって気軽に来られるテンミリオンハウスがあることで繋がりができているので、大変重要な仕事をしていると実感しております。

小さな施設ですので、利用者同士が仲良くなりやすい利点がありますが、逆に新しく来た人を排除してしまう傾向がありますので、そこを管理することが今後の課題となります。全体としてはすごく楽しく運営できております。

【花時計】 「花時計」は地域の方達に支えられて5年を経過することができました。講座発表会と世代間交流の2大行事を柱に、日々は講座を中心に事業を展開しております。講座は開所当時からボランティアの方達にお願いして実施しておりますので、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

講座発表会は日々の活動を皆さんの前で発表する機会で、他の講座の様子も分かりますので利用者の皆様にとってはとても楽しみな1日となっております。

また、世代間交流は4月に行っておりますが、ボランティアの方達等と協力して行っております。この中では、私達の目的の1つであります「日本の昔遊びを子ども達に伝えていきたい」という思いから、高齢者の方々がボランティアとなって折り紙やお手玉、紙芝居、コマ回し等を教えたり、教わったりしながら楽しく交流が行われております。また、昨年度はそば打ちの実演もあり、とても好評な内に1日が終わりました。

更に、5年目という節目を迎えましたので、利用者の日頃の想い等を文集にしました。それを機に新聞社からの取材がきて、「花時計」について取り上げていただきました。

また、児童の居場所としましては、市内にはあそべえや学童クラブがございますが、「花時計」はその1つとしてお琴や茶道、手芸等の伝統文化と児童が接する機会を設けております。

その他に、地域社協や民生委員の方を中心として月1度の木曜日に「おしゃべりサロン」を開催しております。これは、独居高齢者をお誘いして互いの輪を広げていただけるよう地域の方と連携しながら行っているものです。

【くるみの木】 お陰様で1年半を過ぎましたが、まるまる1年が初めて経験することという中で、一生懸命運営することができたと思います。

65歳以上の利用登録者数は201名、延利用者数は4,727名、登録者の平均年齢は71.6歳となっております。食事を自由にとれるようにしておりますので、独居の男性の利用もあります。

プログラムにつきましては、昨年健康麻雀を増やしたことで、利用者の幅が広がりました。また、できるだけ多くの方に利用していただきたいので、体操のプログラムを通常1時間半のところ、45分に短縮して2回行う等工夫しております。

また、昨年度活動する中で、介護保険を利用していた方が急にお元気なまご自宅で亡くなられるということがありました。その方の情報をもう少し早く知りたかったので、地域のケアマネジャーや介護保険事業者の会議等にテンミリオンハウスからも参加できたらと思いました。地域懇談会等を行い、地域で支えるという意識で皆が連携しあうことが重要ではないかと思えます。

また、昨年度から介護保険家族の会を始め、利用者の中で介護を抱えている家族を対象に実施しております。

テンミリオンハウスが地域の方に知られていない現状がありますので、もっと知っていただくためにも毎月ニュースを発行しております。地域の魚屋さんやお肉屋さんの紹介や、色んな形で地域の方がテンミリオンハウスに関わってくれていること等を紹介しております。

隣接の赤十字保育園とは誕生日会で歌を披露する等、定期的な交流を行っております。

【あおば】 一時保育事業は、リピーターの他に新規登録の利用者もかなり増加し、特に0～1歳の保護者についてはとても便利に使っていただいている施設となっております。

自由来所型のひろば事業の利用者もかなり増加してきております。この事業は、武蔵野市内に限らず、市外の方も遊びに来られております。また、乳幼児

の保護者にとってはとても狭いスペースですが、この狭いスペースが「肩ふれあうスペース」として利用者同士の交流が深まっております。その中で一時保育事業も一緒に行っていることから、スタッフとの関わりを持つこともでき、様々な話を聞けるということでも好評です。

「はあと事業」につきましては、最近直接「はあと事業」としていらっしゃる方は減っておりますが、家から出ることができない・他に相談することができないという状況で、やっとの思いで「あおば」へ電話して来る悩みを持った保護者の方が増えてきております。よって、今は直接施設へ来られることよりも、電話での対応が主となっております。また、お話の中であおばへ興味を持ち、実際に来ていただいて徐々に他の利用者との交流を深めていく例も多くございます。

年間 17 回実施している子育て支援講座は毎回好評で、ここ数年シリーズで行っている「わらべうた」は昔歌ということで保護者の方も喜んでくれています。昨年度からは「親子遊び」をシリーズで開始し、触育から徐々に子どもの創作意欲を引き出していききたいということで、子どもが物を作ることを行っており、こちらも少しずつ定着してきております。また、保護者の方が子どもから少し離れたときのくつろぎの場をつくっていくことも考えていきたいと思っております。

ボランティアセンター主催で行う夏ボランティアの受け入れについては、昨年度はとても好評で、毎日 2 名ずつ交代でボランティアがお入りになり様々な経験をされていきました。中学生から大学生までが参加され、最近は兄弟が少ない方が多い中、「あおば」で小さなお子さんとふれあい、精神的にも有意義な時間を過ごしていただいたと思っております。

【委員長】 ありがとうございます。それでは質問をお願いいたします。

【委員】 今取り組まれている中で、今後どういう地域づくりをしたいとお考えですか。また、それを実現するために、今足りないもの・必要なものは何なのかということをお教えいただけますでしょうか。

【きんもくせい】 中高生のボランティア体験の受け入れや、境の福祉の会が「きんもくせい」を利用して認知症サポーターの勉強を行うこと等を通じて、地域の福祉力を高めていきたいと思っております。また、匝細匝大学や近くの小中学校の学園祭等に「きんもくせい」の利用者の作品等を発表できる場を作りたいと考えております。

「きんもくせい」の利用者も高齢化が進んでおりまして、テンミリオンハウ

スだけでは対応できない部分も出てきております。そのような対応をいかにするかということで、今後は「桜堤ケアハウス」の在宅介護支援センター等と連絡を密にしていきたいと思っております。

【花時計】 「花時計」では地域の民生委員や地域社協の方と月に1度「おしゃべりサロン」を実施しております。そのような機会をもっと増やして行きたいと思っております。また、イベント等は近隣の大学生にお願いをしております、今年度は武蔵野大学にお願いをしております。小学生に対する講座もありますので、そのような若い世代の方達も引き込んで、地域の福祉力を上げていきたいと思っております。

【くるみの木】 昨年度「くるみの木」を運営していく上で、地域づくりとは1人1人が知り合っていくことを、1つ1つ繋げていくことなのだと思感しました。それは利用者だけではなく、我々スタッフもその中に入って、1つ1つ地域の方と繋げていくのだと思いました。よって、どんな機会もそういうチャンスを持っているのだと思っております。

【あおば】 私達は、地域の子育て支援の核にならなくてはいけないという意識で活動しております。しかし、武蔵野市の端に位置しておりますので、反対側の地域の方達をこちらへ引き込むことがなかなかできません。そのような方達を支援講座の中で呼び込み、輪を広げていこうと思っております。また、私達にとって大きな難問となっておりますのが世代間交流です。近隣にはテンミリオンハウスの「月見路」や「吉祥寺ナーシングホーム」がございしますが、利用者が増えてきており、スタッフもその対応で手一杯のため、なかなか行うことができずしております。建物自体が普通の民家ですので、段差等を考えますと高齢者の方に「あおば」にお入りいただくのは難しく、悩みの種となっております。

【委員】 ありがとうございます。今お話を伺っていて、やはり繋がるということが1つのキーワードではないかと思っております。来ていただいて繋がることはありますが、来ていただけていない方達とどのように繋がっていくかが、テンミリオンハウス本来の「居場所」という意義を踏まえた上でも重要なことになると思っております。是非、取り組みを広げていただければと思っております。

【委員】 介護保険が必要だろうという程度になってきた利用者への対応はどのようにされていますか。また、どのように家族に繋げ、どのように介護保険に繋げているのかということをお教えいただけますでしょうか。

【きんもくせい】 今年の初めにテンミリオンハウススタッフ研修の2回目が

ありました。その内容は、武蔵野市が持つ高齢者サービスの内容・システムの説明でしたが、これが非常に良かったと感じております。これによって、地域の施設との連携が取れるようになりました。

【花時計】 「花時計」は平均年齢 75 歳ととても若いので、現在そのようなことに直面して困ったということはありません。

【くるみの木】 「くるみの木」では、認知症の方は結構利用されていますが、情報の持ち方をもっと徹底できるよう、これからは在宅介護支援センター等ともっと連携をとっていこうと思います。また、スタッフの中でも認知症サポーター研修を行うことや、スタッフ会議の中でケアの話等をしていけるようにしたいと思います。

【委員】 2点伺います。

- ① 1日のスタッフ構成について教えていただけますでしょうか。
- ② ボランティアの募集について困難さを感じたことがありますでしょうか。

【きんもくせい】 「きんもくせい」は、常勤者1名、スタッフ2名で構成しております。また、食事の準備のために、調理補助ボランティアに月曜日から金曜日に1名ずつ入っていただいております。尚、月曜日のみスタッフ3名で構成しております。また、20コマ程の講座を行っておりますが、全てボランティアの方に先生をお願いしております。

【花時計】 「花時計」は常勤が1名、調理担当が2名、高齢者担当1名、乳幼児担当1名の5名できめ細かな対応を心がけております。乳幼児は、1組で利用されている場合でも必ずスタッフが1名付くようにし、「花時計を利用したけどつまらなかった」とならないような対応を心がけております。講座にしましては、最近も講座を行いたいという希望者が2名おられましたので、その申し出を受けている状況です。

【くるみの木】 「くるみの木」は、施設長は常勤ではありません。スタッフ4名を常勤とし、内2名がフロア、もう2名が食事を担当しております。食事は午前9時半から午後2時半が2名、その他は午前9時から午後1時と午後1時から午後4時の4時間ずつに分けて、2名ずつ配置しております。よって関わるのは全体で6名となり、加えて施設長が出入りをする形になっております。スタッフはシフトを組んでおりますので、食事等でボランティアを採らず、サポーターとして登録をしていただいた方に、お庭の手入れやブログ作成等を行っていただいております。講座の講師につきましては、最初からプロの方へ依頼していることや、ボランティアの方でも講師料をお支払いしている関係上、

ボランティアが今後どのような形で運営に入ってくるかが私達の課題となっております。サポーターという形では、どんな方でも登録ができ、様々なことを手伝っていただくことができます。

【あおば】 「あおば」は、平日は常勤が1名、非常勤が3名、土日については非常勤が2名となっております。また、子どもの預かり状況によりスタッフを増やさなければならない場合は、応援スタッフとしてひまわりママさんの方から来ていただいております。ボランティアに関しましては、スタッフとは別に、スタッフの補助としてボランティアに入らせていただいております。お子様の安全面がありますので、完全にボランティアに任せるということはせず、スタッフの補助を行っていただいている状況です。

【委員】 5点伺います。

- ① 市民社協との日常の関わり方について、各施設具体的に教えていただけませんか。
- ② 「きんもくせい」の平成 21 年度の収支を拝見しますと赤字が多かったのですが、その理由を教えてくださいと思います。
- ③ 「花時計」は、「おしゃべりサロン」をもっと広げていきたいとのことですが、これは地域社協が主体となって「花時計」の場所を借りて行っているのか、それとも「花時計」が企画をして行っているのかという運営の仕方について教えてくださいと思います。
- ④ 「くるみの木」につきましても、家族の方と接する機会がないということで介護家族の会を実施してはいましたが、何名ほどが参加されているのでしょうか。
- ⑤ 「あおば」に関してですが、なかなか家から出られない保護者の方がやっとの思いであおばに電話で相談するとのことでしたが、具体的にどのような相談内容を受けているのでしょうか。

【きんもくせい】 パソコンがうまくできないこともあり、市民社協の担当者には本当にお世話になっております。また、運営上で困ったこと等をいつも相談させていただいております。

赤字に関しましては、繰越金がありましたので最終的には赤字にはなりませんでしたが、特に余計な費用がかかったということではありません。

【花時計】 市民社協には月1回の会議にも出ていただいております。様々なアドバイスをいただいておりますので、大変頼りにしております。

「おしゃべりサロン」は、境南町2丁目の民生委員と地域社協の会員の方が

まずは中心となって始めたことですが、現在では地域社協の行事として、「花時計」の場所をお貸しして行っているという状況です。その中に私達も参加し、お話をさせていただいております。木曜日という「花時計」でもイベントを行っておりますので、もっと増やしたいという気持ちはあるものの、なかなか難しいといった状況です。集まる方は5～6人と少ないのですが、独り暮らしの方もいらっしゃる、「花時計」が心の拠り所とおっしゃっていただけるので、機能を果たしているのではと感じております。

【くるみの木】 「くるみの木」は1年目ということもあり、報告書の書き方をよく市民社協に聞く機会がありましたので、本当に市民社協にはお世話になっていると思っております。

介護家族の会は、12月に初めて設けまして、その後偶数月に定期的に行っております。最初は在宅介護支援センターや関係施設のスタッフの参加が多かったので、総勢12、3名となってしまいました。私達の本当の目的としましては、本当に介護を抱えている家族の方が少数で何でも話せるような会にしたいと思っておりましたので、次からは専門の方の見学を禁止としました。もちろん、その方が本当に介護を抱えているのであれば、参加していただいて構わないとしております。結果、2回目以降は実際に介護を抱えている方の参加となり、4、5名が参加されている状況です。

【あおば】 「あおば」の場合、直接的な市民社協との関わりとしまして、夏体験ボランティアがあります。また、直接ボランティアをしたいという要望があった時に、市民社協へ連絡しております。

相談内容に関しましては、1つは子どもが他のところへ遊びに行くと色々なお子さんに手を出してしまうという相談でした。この方の場合、家から出られないという訳ではなく、「あおば」を何度か利用された方で、このような相談ができるのはあおばだけだと思っただけの相談でした。他には、祖父母との関係という内容でした。これは、相談者ご自身のお父様・お母様が娘の育て方を無視して、お父様・お母様の育て方をしたいということに対して、自分が何も言えないという相談でした。これに関しましては、「あおば」で対応するに難しいと判断し、子育てSOS支援センターへと回させていただきました。また、自分の子どもが可愛くないわけではないのだけれど、どうしても手を出してしまうという相談がありました。お話の中で一度「あおば」に来ていただくようお誘いをし、2、3度来ていただいたところお母様も落ち着いてきましたので、来ていただいて良かったと思っております。

「あおば」で出来る範囲のものとはそうではないものがありますので、それは随時判断して行っております。

【委員】 「花時計」は高齢者の利用が少ないのではないのでしょうか。

【花時計】 高齢者の利用者数は、1日平均16～17名おります。また、登録者は226名おり、健康麻雀等は男性の利用者の方が多い状況にありますので、少ないという印象は持っておりません。

【委員】 「くるみの木」に関してですが、今回の報告で赤十字保育園との世代間交流が実現して良かったと思います。今後も活動の幅を広げて、世代間交流を実施していただきたく思います。

最後に、皆さんにお願いとなりますが、武蔵野市には様々な団体・施設がございます。そういった地域の方との交流を深めることで、地域の貢献をお互いに行っていけるのではないかと思います。今後もそのような地域をご利用していただければと思います。

【委員長】 それでは、時間が参りましたので質疑応答を終了したいと思います。ありがとうございました。

【委員長】 今いただいたご意見等に対する委員の意見交換は次回に行いたいと思います。

(3) 川路さんち公募について

【事務局】 「川路さんち」の公募について、2点お諮りいたします。

1点目は、「川路さんち」の公募のスケジュール案について報告させていただきます。市としましては、市報の8月1日号に公募について掲載いたします。同時にホームページ等でも情報公開する形となります。

また、建物内覧会と相談会を8月と9月に期間を設けますが、問合せ等があった場合、「川路さんち」と相談して日を決めて行いたいと思います。評価委員会に関しましては、この8月～9月で委員会の開催時期を調整することとなります。開催時期としましては、11月の中旬頃と考えております。

こちらの公募につきましては、10月末日をもって提出期限とし、3ヶ月間公募を行うことにしたいと思います。

現在の運営団体に関しましても、運営の継続を希望される場合、他の団体と同様に事業提案書を提出いただくことになっております。

11月には市に提出された書類を審査し、委員長との打合せを行わせていただきます。よって、中旬頃に委員会を開催することになります。また、この11

月中旬に予定している委員会につきましては、応募団体のヒアリングは公開とし、審査については非公開とする予定です。この委員会で市長への推薦団体を決定し、12月に理事者協議を経て運営団体を決定する予定です。

また、12月には新団体も含め、次年度の計画について委員会を実施し、補助金の交付額を決定する予定であります。現在の運営団体が継続の場合は、例年通りの流れとなりますが、運営団体に変更となった場合は、利用者への連絡や事業の引継ぎ等を行っていくこととなります。

2点目としましては、事業採択基準についてです。これにつきましては、昨年の第2回委員会において、公募に対する基準は現行の基準で行うというご意見をいただいておりますので、公募を行うことによる基準項目や乗数の変更をせず従来通りでよろしいか最終的に伺うものです。説明は以上です。

【委員長】 今説明がありました日程、採択基準に関しまして、何かご意見等がありますでしょうか。

【委員】 今回の公募について、新規の団体が公募してくることを考えますと、事業の目的等を公募の際に分かりやすく記載する必要があると思いますが、その辺りはどのようにお考えですか。

【事務局】 市報に掲載となりますと、どうしても紙面に制約がございますので、ホームページ等で詳細については掲載するという形をとりたいと思います。また、直接お問い合わせいただき、対面やメール等でも対応できるようにしたいと思います。

【委員】 テンミリオンハウスは比較的事業者の創意工夫が大きい施設ですが、市としてどうあって欲しいかということ、分かりやすく掲載した方が良いのではないかと思います。

【事務局】 ありがとうございます。参考にさせていただきます。

【委員長】 この日程で行きますと12月に市で理事者協議が行われ、運営団体の決定が中旬となり、補助金交付額決定の委員会開催が同じく12月の中～下旬なので日程的に厳しいのではないのでしょうか。

【事務局】 11月の採択評価委員会におきましては、推薦団体を決定していただき、最終的には市長が決定いたしますが、実質は11月の段階で決定する流れになると思います。

【委員長】 そうなりますと、11月の事業提案の段階で、応募した団体が運営内容の資料を添付しないと判断がつかないのではないのでしょうか。特に新しい団体が採択された場合、12月の委員会には間に合わないのではないのでしょうか。

【事務局】 事業提案書という形で提出していただく内容につきましては、12月に行われる委員会の内容に近い事業計画書等も入っております。しかし、12月の理事者協議が中旬ですと、確かにその後の採択評価委員会の開催が厳しくなりますので、理事者協議の決定は12月上旬とし、中旬に採択評価委員会を開催したいと思います。

【委員】 現在の運営団体が採択された場合でも4月に開設セレモニーは行うのでしょうか。

【事務局】 継続の場合は、開設セレモニーは行いません。

【委員長】 他にご意見がないようですので、この日程と現行の採択基準で評価を行っていくということよろしいでしょうか。 → 委員了承。

【委員長】 それでは、これをもちまして平成22年度の第一回採択評価委員会を終了いたします。

5 閉会

以上